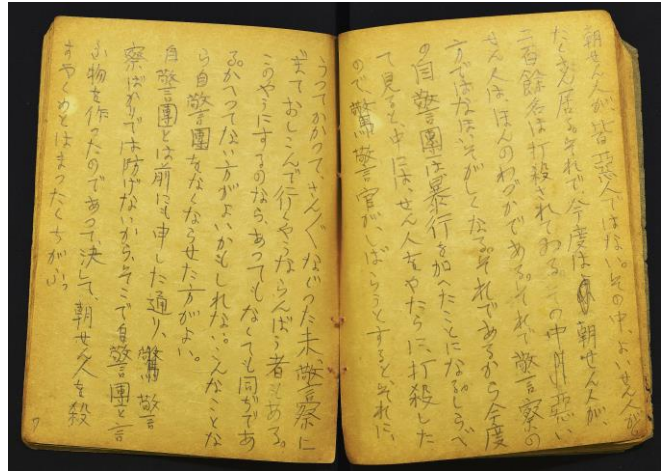


(2)朝鮮人虐殺事件

関東大震災発生直後の丸山は、朝鮮人をめぐらうわさをそのまま受け取っていた。ところが、自警団による朝鮮人虐殺が明らかになると、丸山の評価はたんなる受け売りではなくなっていった。それを示すのは、『恐るべき大震災大火災の思出』の附録の記述である。



震災火災の後、朝せん人が、爆弾を投げると言ふことが、大分八釜(やかま)しかつた。

それであるから、多くの、せん人を防ぐのには、警察ばかりではどうしても防ぎきれない。それから自警団と言ふものが、出来たのである。だが、今度の自警団はその役目をはたして居るのではなく、朝せん人なら誰でも来い。皆、打ころしてやると言ふ気だからいけない。

朝せん人が、皆悪人ではない。その中、よいせん人がたくさん居る。それで、今度は朝せん人が、二百余名は打殺されてゐる。その中悪いせん人は、ほんのわづかである。(中略) こんなことなら自警団をなくならせの方がよい。(丸山眞男『恐るべき大震災大火災の思出』〈丸山文庫草稿類資料 341-5〉：画像)